(1)

大生、赤松英一君の二人の司会で「四本的者と二月エンタープライズ闘」

「新教徒」上目前公司等分,不断是女子的最高的的。李和李文章,最后就会公司,李文章,其他之间,王家直见,任,我将政策的部分与一张,对它们,是有明显,这种,他们是是他们的第三人称形式的一张和的人,我们是 经金融工作者 医阿克氏氏虫 医电子 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰人姓氏格兰人名

総指では、日十・八以降の反義

参加したのは広島大学自治会選

再発統伽委員長には淺川四雄岩

∞ 9.15.10.8 行動を提起

樂会は、金学地醫和次長丸山淳

長崎に全国

か

50反戦

主安保拉棒 本年四王和万朝のため関わう 田闘争以後の難いの秘括と数川の

めん

第396号

八五大集会 労学四千人が結集

反帝国主義・反スターリン主義の旗のもと

郵送読者の構施料 1部 半年 800円・1年1500円 2部 半年1300円・1年2600円 8部以上は送料当方負担

4 頁 月ぎめ 20円

万国の労働者団結せよく

っちだされたことであり、三千八(宣言したのである。 し来の聞いのなかさともに聞ってした最共同の七〇年除練――安保・して何よりも集全な、カガからの一代妻も経護したが、そのなかを全して何まりも集全は、カガからの 一代妻も経護したが、そのなかを全

一地調され、政治闘争と戦場闘争を

をありさしを行ない、大きな懸象

革命的共產主義者同盟

②中かまの中大大学書書以来の - した業共同の七〇年的様 - 安保 受入金素を持ちないなく 「名美宝」百人の条加等(大学)がある。 さ、七〇年への書館の機に立っ うちだされたしてもあり、三十人 な、七〇年への書館の機に立っ うちだされたしてもあり、三十人 な、七〇年への書館の機に立っ うちだされたしてもあり、三十人

■的関係が表わられた単には、対象権はよいかとよ、金池は大会、マイルに乗る。たちまら「千典 マイ・ノの重要とはなけられな、全条の間に扱うさせる心臓性、死っまれて、毎里を指すせい。 の前に乗る人は上級のより、何、自なりの前に乗るしたいとを成の日、同る上のではなる様とだっ より事本を事情の解析に指すにもはっきったしたのである。モ

9を知ろうとする一般参加者が争

二次立入り制量とホーリンク阻止が鮮時に打ち出され、集会の採択里寒闘争について報告し、秋の第一長団のまとめ零とおして次の二点

塞地化に対する反響の設が労働

衆的爆発へ懸労を固めて

**町間抗議と、九月以降の聞いの大 | 電子計算機センター前の九大区** 

六月二日以降の聞いをお切るもの

子計算機センターをつくるために 西阿兰院大学自治会、東京地区 会議が探いたパリケードのなか

つき、秋山舎、遊園園はは「 紀経会を開いた。九大反戦会

常世語人際原発氏のあいさつ

とえ、電線膜センターが出来なった拠点を破滅するものである。

化反対・安保紛砕の聞いの決定的であり、数付海地派表・全土空間

一行は、九大樽内デモののち、

言葉をついで「原水漿大会の調いをよびかけたあと、

の発生

側的な拍手を受けた。また三里塚

く無よる強

覇に原潜二隻入港 放射能に憤激高まる最

国際にたいと、金水上で、その てそれを打ちがためるしとを決め 一方を切るような不もな解すを排 七〇年親寺滅野への金九州的、金 し、それるを結合して贈っ方向が 国的な新たな自発点となったので とのかんの経験と説列にふまえて ある。

千四百人が市内デモ

書、公務執行妨害の口実で三人が 雄君(回醫 記長)。 威 力業 務妨 連中戦、広大自治巡委員長)、 畑 との三人は、 庵川樹雄君(会学 関争に参加した広島大生三人が起 佐世保、長崎に行っている回に在 【由慶社】八月、七・二二典

各菜皮板代表の発音にあり、佐世 以上の区板の結束のなかで、労働(久能)は時果 反岐 運営委員)と 九州はもとより、金国からの予想集会の社点は、後半の迷闘報告 かくて人・人長梅賀年拠会は、

えのある楽劇の怪しい男を拇発し

間したととう、男は、広島場

九大学生、数塚質の探い関心をひ

い」と演説、集会をとりかこんだりケードを守 りぬ かねばならな に、全国の闘いを結集してこのパ てもかまわないという決意のも

広大生三人起訴

隊が経築消場の資材をあつめて のあく、金融さ一手にわか 宗会をもったのち、福岡市内で 別の一隊が将度の九大柄内デ 1一ド 精強の作業を 行う間

ます強められている をうけてつまみだされた。 厳権すあることが疑惑され、大衆的糾弾

七・二一製置争は北九州山田県一さらに反映青年委員会代記の表館 ターからの操体ひきおろし阻止の 取管年参は、一日ゼ、電焊機セン にふまえて九大反映公職と九大反 ためのパリケード梅樂空間いた

佐世保、長崎での第余とデモン

とれよりさき、前号既報の聞い

かる領域機センターには三

の中様底が高々とかかけられた。

た。集会は全帯運動山勝行委員長の全条運定期全国大会の報告とに世保、長昭総会の訴えをもって、インター 者、部路解放回駅からもはじめてあいさつがあり、日本の全ての短腦的労働者・顧民・孝生・教抑圧動労人民の大結槃の樂会となった。また集会に参樂した多数の外国 人を代装して米英独から一人づつの代表が領域に終り、日本の惑命的騒争との国際顕行を厳闘した。「五月城命」のフランスからは、メッセージがテープで送られてき すととを強く訴えた。との議演の前に、三里家、砂川両反対同盟、日大念空共闘会議、在本土沖繩県学生、反臨高語が闘う連帯のあいごつに立ち、また東京山谷の労働

同の清水丈夫政治局質は「七〇年頭争と日本革命の援撃」と同して二時間近い講演を行い、内外情労の撤しい展開の中で、七〇年勤争を革命的左襲自身の手でつくらだ か五日、東京の日比谷野外営業堂に三千八百人の労働省、学生、都民を集めて贈かれた。会湯は言っしりと担まり、立っている人も相当の数にのほった。との中で李共

霧の危機の尿化」という基本的な「幸と話げつけて闘うくとが今なに」まり、区域滅動の代表、中滅闘争の年度的議論の開始と日本帝国主」としての闘い。を革命的に注意生」(集会は、北心路戦氏の司会で始 れれの傾いの諸域にわたって雇っれた自身によってきのひらく以外、治に今代は後の収録庫やの後側に関係れ、とくに最初の関係で開催にはないといっれわれば、後の一両えらる機関は原境の政策をもたのと確定はあった。 現後は現代域になの関係」と今日的な「後」(うすらであった。 では、「大きな、日本の間には、「大きな、日本のでは、「大きな、日本のでは、日本

反義高級の代表、神網蘭争一家土成と多彩な観ぶれが次々にあ

広島

佐 世保

長崎

福岡

連日

の反戦集会デモ

外国代表として、アメリカのリ 生運動)、イギリスの 会あいさうをかねて秋山勝石社会学の原数の基本と、 関大が、今回の表現の表現のあると、 関大が、今回の表現の表現のあると、 関大が、今回の表現の表現のあると、 関大が、今回の表現の表現のあると、 関大が、今回の表現の表現のあると、

●の同時寄港は当 るかを目ら暴燃している。 であった。 一方向に高まるのをいかに扱れてい が大人被基地化区対の

戦機的デモンストレーションをか 八・八尺城区安保法院資生與会

日、おりから社会党案の「原水業・配念小師で一分間の監護をささば、長崎原宗設下二十三周年のこの 公園に到着、原爆投下地点の平和 世界大会」が午前十時から(共産 接筒において初めてよるいうべき フランス、うずまきデモをくりからに参加した背牟労働行学生は、 | 百名のデモ隊は、教治ジグザグ、会に参加した背牟労働行学生は、 | 万名のデモ隊は、教治ジグザグ、「日本 長崎原保袋下二十三周年のこの えし、ヘルメット級の県警の手出 午前八時半、中核旗をなびかせ

8

25 大衆団交を要求

をひきおろす」と発展、それにむ

了後、九大当局は「三日には続休

一級を恐怖のどん話におとしいれ の古田=堰事者は、金字共曜会 のどん話におとしいれ 争はふたたび、古田と日本支配階 4日 日大全共闘三千が起つ

にのである。だが、八・四関争は 日大隅一た。八・四団交にいたる高程で、 権力機制隊が、文部省が、自 が、そして日本の石製がまちかま 古田=畑等会は、幾つかの助路を

関する、職業、他がにものが、をは、上れら、日の別がたらは来」や「ことが表示できるよう」をないます。あるとしたはつきから、単純などは、古のは単一であってのと、日の教徒を持ち、中心では、日ののとしたはつきから、日の教徒を持ち、日のは、日の教徒を見れたという。 「日の大き」というなど、日の教徒を持ち、日のとは、日のとないらいておめなどない。 日本教徒を持ち、日のとは、日のとないらいておめなどない。 日本教徒を持ち、日の日本をは、唯一の教育の書物という。 日の日本というと言う。 日本教徒の事を大は、日本教徒の書からには、日本教徒の書からには、日本教徒の書からには、日本教徒の書からには、日本教徒の書からには、日本教徒の書からには、日本教徒の書からには、日本教徒の書からには、日本教徒の書からには、日本教徒の書からには、日本教徒の書からには、日本教徒の書からい、日本教徒の書からいます。 日本教徒の書からいます。 日本教徒の書からい、日本教徒の書がらい、日本教徒の書がらい、日本教徒の書からい、日本教徒のまりらい、日本教徒のようのは、日本教徒のようのは、日本教徒のようのは、日本教徒の書からい、日本教徒のようのは、日本教徒の書からい、日本教徒の書からい、日本教徒のようのは、日本教徒のは、日本教 数減臭と討論に入り、鑑算機セ リケード機能によりかかり、カガ ろしをあきらめる、と発展、そののち、ついに、二日の様体ひきも 部解室で皮吸金融は六百円

日夜半から電線機センター物

日本政府の参展団化への力が使ま・・クローク、フランスーCRのジル、米帝のベトナム侵略が強化し、シ・ヴィルソン、同SDSのジン事実はあの働いの成果なのだ。し、のほか、アメリカSNCCのジョ の再寄継をできないでいる。との「闘公議、三国家と山迎台区対同盟 で構定していることはできな いる時に、われわれは しの成。キネット・アペールら五名の各国一た。 と考、この字そは、NBの前の台 いあう絵念をもって解散した。一 を高の、写真公園に至るメイン・ 人していて資産の働行は拍手でと ストリートをフチ抜いて庭問され、の字そを迎えた。

佐世保業に千九百

7 日

全学連再び市民と連帯

広島集会にも六五〇 6日中 ・四国の労働者・学生が

め、佐世保堂区戦の町へ、そしてそ

を発音し、長いのでは、100mmのでは

まな経験を出しあいなから楽めら、参を郷めることが全体で圧倒的に 火の手をあげていくか、がさまさ の再建、中国地方反腹の結成へ巨しい選案の中でとのように反戦の 飛瀬麻紋表験争の推進の中国字道

学部一号館、大講堂を埋めつくし が、会場をおおった。 との異なを通して、特に八・ 当局に対する限りない情報 明に、力強く確認し、最終 この中にのみ、そしてこのはまち

化の中で、自らが区域闘争の推進

討論中、三星線シ山巡合区対同

めた機動隊も、あたりを徘徊する 

れる実践的結論として、全土採地、農民と治学地の聞う件がますます

なわれた原水美大会(社会党系)

一般の中で、これまで日大闘争に中

情の拍手をうけた。また、アメリ

四団交拒否の方針転径の背接に、方、当局の恥も外睹も忘れた人・

る。日大闘争は不格的段階に入っ始をはっきり読みとることができ

将なな人、弾圧に松ってきた。一

弾機制辺距止・3幡(おうはん) 一力のSDS代表、反戦・反復は・鼎 中国学連再建

そして、鎌後団に広島県安佐一が開かれた。今年中に再建大会を 学に中国地方の学生二百人が結束、大学経済学常園治会と爲根大学文【中国支社】六日年後、広島大一代説と、オブザーバーとして山口 し、中国学返与建筑備会結成大会 準備会を結成

学、十二自治会。中国地方の主要・理学部自治会の執行委員など六大 17号

国鉄労働者の六カ月の園い―7年への任務― 内山 

五万人反合闘争中間総括と十月への課題 北村五郎

反戦・反安保・沖縄奪還の大闘争を八、九月反合理化闘争を突破口とし 九月反合理化闘争を突破口として

いえば 「相対的安定」 り、よくいわれる言葉で いっ たのである。つま の 後十数年間にわたら

問題は、世界革命を「一国の社会主義の建設」 の矛盾を探測化させてきているのである。一つの

帝国主義の戦後世界体制が大きく崩れてゆくと一である。

こしているのかを、大きつかんでおくことが必要、国社会主義の対心の複数をきらけ出しつつ、内部をして、関係のではを何ら解決することができず、自らも一主義のを調を何ら解決することができず、自らも一

る。だべ、そればかりではない。いわゆう一回生、生物必要によりできる経費の様化が顕微性の一体体的必然性としてあらわれているアメリカ帝国主の新教においてますもって培命。行き引きってい、「の信仰」の時代の過ぎ、モビスターリン主義の道、強力でゆくかたいうことが問題になる。ドル・ボンーの新教と語り、

当団」の時代の連行、でしてスターリン主義の歴との点では、簡単にいたは、国際帝国主義の「死

遊んでゆくかということが問題となる。ドル・ポンをの中で、具体的にはどういう動きとして危機が

かざるをえないのである。

第二次大阪のあと、世界は非常に大きな形形に と世界革命の敗退 第二次大戦後の激動

こうして競役の大きな革命的高揚の時期が帝国

の大きなヴクにはめてま

今日非常に大きな問題によちあたっているのであ してアメリカを中心として形成された晩後世界は

機に対しても中国の経験に網絡が与えられない。
もっている。その結果、ベトナムで組んでいる事
りきるために飲洽的に知用する、こういう傾向を

年安保闘争

国路線においては位置づけが与えられていない。

|一危機を深める内外情勢と七||

地帝国主義国のプロレタリアー

の世界革命にむかっての道ではない。先

界戦略の惨めな破綻 スターリン主義の世

個強根本的に欠格させたところにおいては、こ 諸国で進んでいる民族解放闘争も、帝国主義の打 つまりベトナムをはじめとする後週国・半棟民地

とれに対してスターリン主義は、一国社会主義

ムの聞いが進んでいけば、 ムで進んでいる聞いは含わめて体大だが、ベトナ的解決を与えられないということである。ベトナ たジュネーザ会議の大きなワクのなかにはめこまナ戦争のあと、それをまとめるような形で開かれ

世界は、物後、復興し、各国が発展していくにしそのためにこういう機械的なかたちで統一された

国の「中間地帯論」の対徴は、実際にはプロレタところが、フルシチョフ路線の破磨に対する中

るという問題として返期されている。

いう形をとってアメリカ帝国主義の機後世界の盟

立をかかけた巨大な運動は、朝鮮戦争とインドシ

こがあいまって、戦後における民族解放・独

こに頼ご双大順後の世界の根次的と同様がある。 に仮知して、機械的・非有機的に一つの地界にに仮知して、機械的・非有機的に一つの地界に

と全中心にして問題提起をしたい。

など主要な資本主義国において、あるいは後郷国気養われた。日本をはじめ、フランス、イタリア

米帝の圧倒的力に

ところが、とのマルタージュネーウ体制がつつ 拠した世界の矛

盾

総括と教訓

はもってくる。晩後の世界が豊田で、安定してい の登一つの体制が二十年間もつづいたどいうこと らひっくり返すというのは何か非常に大変な、 きなのことが二十年間がようつつくと

的な原因として重大な力べにつきあたってゆったよっておさえられてしまう、ということを

的に依存する形で喊後の世界がつくりあげられて アメリカの政治的・経済的・軍事的な力量に一方 でその固有の矛盾を自己暴騰してきたのであろう

か。第二大戦後の帝国主義は アメリカ帝 国主義

れてさってしまったのである。かくロフスルシチくるという選案に展面したときに、もろくもくす

うが、帝国主義が、その存亡をかけておしずすめて 的にいえばベトナム侵略般争を、ソ連が何をい るとか、あるいは機械秩序を帝国主義の何からく

主義者の「世界革命」の路線は、実際に

にこの職後世界を機後世界たらしめている特質の

いった。とこに、戦後の世界の、特徴がある。まさ

困難、危機に原面し

である。とくに後進国革命の頂大をなした中国軍

ように発展していったのである。ところが接着国

つ数酬をもっていたのか、ということをはっきり

というとき、まず最初に確認しなければならない

残念ながら革命的な方向によって止揚することが できなかった。そうではなくて第二次大戦宋期の いわゆるヤルタージュネーヴ体制によって帰復に

もそれは 非常に大きな 問題として立てられてい

基本的な時代把握 聞いの基底にあった

准

と、その一環としての日本帝国主義の危機の様化と、その一環としての日本帝国主義の危機の様化ということ **な考え方は、去年の十月八日以来の寮助の願いを** というわれわれの一郎年の大会で確認した落本的

成の体系におさえどまれてしまったのである。 て第二次大戦後、日本をはじめとして非常に大き としこめられてしまったのである。その結果とし

リン主義の相互の制芸による一定の体制は、実に、その一番力きな原因は最後の音話主教シスター こういう神器は今日、とくに一九六〇年代後半に暫に気がつかない一つの神話なのである。そして

う考え方は、微後の世界がもっている根本的な矛 体制を実化し、とういう体制がいつまでも続くか 国主義よりも強いのだ、それが時代の維労なの

おいて労働者階級の闘いが基本的にその敵を倒す

る。さて帝国主義国において革命か反革命

きりと自己暴騰しはじめたということである。 方によって発袖しねじまげてきたスターリン主義
世界革命を一国社会主義と平和共存という考え

がそのもっている本質的な問題任をいよい

域の時代に 直面しつつあるとから、これをは、高い時代に 直面しつつあるとから、これをは、一種としての日本の帝国主義も大きな危機権し、さ

大、具体的には影撃の東欧あるいは明鮮の北半分それどとつかソ連の設備とフ護院の領土的な拡

ところが、この路縁は戦後の帝国主義がスター

向を全く放棄していた。

もたらした要因を根本から打ちたおす、というガ

は帝国主義者で圧倒的 る」といってきたのである。つまり、帝国主義者

てしまった、といえる。ヤルタ会談についている

る、帝国主義に対する圧倒的操位性を確立し

もらしく「社会主義は一つの世界休制になってい 主義者はやはの十年ぐらい前述ではかなりもの 持続的に発展する、新しい時代が剣米し きをもっていたわけだが)たとえば、「資本主義 義者は、(十年ぐらい前まではもっともらしい響 はいく中で、この相対的療定を美化して希国主

いっていたのである。それに対してスターリン

の倒圧とひ者かえに帝国主義の基本的班命が保険

## 〇年闘争と日本革命の展開

八・五青年学生大政治集会における基調報告

清 水

、十八羽田闘争以後の闘いの

丈 夫

そして革命の条件が成業する、平和革命もできるソ連を見て社会主義の方がいいと思うようになる ととが世界の労働者人民の前にはっきりして が今にも倒れるかのようにいわれていた。ところは資本主義の金融的な丝機が発展され、帝国主義 社会主義はどんどん発展し、帝国主義は低迷さ 対して社会主義は圧倒的機位性を確立している フルシチョフ時代には、平和共存万能論とも 基本的に延命し、復興し、発展するという方向を べきものをうちだしてきたのである。帝国主義に ニシュネープ体制のもとで のにかわってきた、というととが一つの選択であ的には日本帝国主戦の基準はきわめてきびしいも った。戦後の日本の矛盾が探まってきたことをね 職後世界の根底的劇場の開始と日本帝国主義の の侵略と利圧、搾場と収等の攻撃に対して、 には、まさに協議の氏物など収養条可

ところが十半くらい前まではこういうことがいわ合理化する道論としてはびこっていったのである いる国々も社会主選を具体的な日産にのぼせる語楽に規定されて、いわゆる社会主選團といわれてリン主義の要切りによって延命しているという選 れても運用する一つの物質的活躍があった。 を保障した重要な視点であった。 退と階級闘争の危機 社共既成指導部の後

の矛盾の探まり、それにもとづく支配階級の死活機様世界体制の様子からの動揺、日本帝国主義 く傍観する、という方向にいったことをわれわれ 争を稼化させる、こういう考え方をもっていないつがえず、こういう考え方に立って大いに階級闘 のもとで日本の労働者階級の聞いは非常に大きな リン主義を打倒する。日本帝国主義を根底からく 会党、共産党の既成指導部はどのように関んでき な関争を説明し、帝国主義打倒・スターリン主義

かを考えてみれば則白た。あの日一体、社会地、とに対して、既成指導部はどのようにとたえたの ている当の国であるベトナムに友好親善の旅に立

的一大家的発展が可能である、とわれわれは考集でのみこのような支援。対する闘いの本当の階級 側の戦略をはっきりとかけ、そのもとに階級闘 るかぎり情労を含りひらいてゆく、かかる針烈な

めてわれわれは、社会党、共産党をのりこえ、、巨大

の首相が日本を代表するかたちで現在戦争を行っ 佐腹首相が一国の経導大臣として廃べトナムを

てそれは中ソ分裂、現在の東次改機、等々の形で主義超級」は大きな壁によつかってしまい、そしいる。一九五六年を分岐点にしてソ連隊の「社会 でてくる実践的結論 この時代的認識から

党建設途上にあるわ

鶴」建設そのものが根本から大きな問題によつか。 さいもかかわらず、その一国に お ける「社会主通における「社会主観」の建設が自己目的化され スターリン主義の本質的な問題性が歴史的にあら スターリン主義の「世界革命」の総路級は総後 日本帝国主義の矛盾はますます傑まるといってま 今後七〇年代にむかって、機様世界体制の動揺、まず第一にはっきり破略されなければならない。 非路実的に含こえた段陽世界体制がこうしてその 機模二十三年間もつづいて、非常に年間に見え

の基本的な考え力を活躍にしていた。
十・八以降の聞いはこういう現代世界について がことで必要とされた。つまりまだ一定の力量しる。われわれにとっては非常に重要な一つの決略 ての歯いを、断固として力の限り展開して、出来れてなおかつ、カッコづ多とはいえ「蛇」としたが近は、簡単に含えば党のための顫いの途上に にもかかわらず情労全体の危機の深まりと攻撃のしか持っていない党班政金上にあるわれわれが、 的な力を形成してはいない。われわれは、いわば マル派のように知らん順でそれを通りすびすこと れたのである。この問題に原面したわれわ の要切りの徹底的な裸化という現実をつき破らな 微化、それに対する人民大衆の綴りの増大、社・共 れは一定の力量をつみかさねてきてはいるが、ま れない、という選美がある。とういう中でわれわ 然のは社・共の隣職と同語によって出口を与える 民の不衡と怒りはもえあがっている。しかしこの ければいけないという極めて困難な立場にたたさ 危機が深化し、攻撃が強化する中で、労働者人

ふつけで使くさどをのきにしたところで分配れがもっている力量を溶出主義に対して食の今日、全く正しかったと考えている。現在 で、以上のような立場を守りぬいたことについては、十・八以降、われわれがこのような選択の中 くりあげてゆくという方向であった。わが原共同でいの中で、同時に在・共にかれる新しい力をつ 階級闘争には何の役にも立たない党をつくりあげ の強調が可能であるという考え方は全くま の願い」を重視しているようにみえながら、実は一 ている。このような考え方は、一見、「他のため とうした立場に立った闘争の腰側によってはじ

の中に定着化させてゆくことができたのである。打倒の立場を一定程度物質化させ、日本階級闘争 反戦闘争の貫徹と帝 国主義打倒の闘い

全体を見る場合に大きくおさえておかなければな 見ることができる。とのことは十・八以降の聞い け深い危機に日本の隣駁闘争が直面しているかを 首相の南ベトナム訪問という事態に対して、この 後二十三年間やってきた。とういう連中が自国の 一般争反対を叫んで、「私は戦争に反対で

心とえばソ連の軍工業優先収

くべきかが、十・八以降、日々関われてきた。 さな力をもっているわけではない。そういう未形 さな力をもっているわけではない。そういう未形 によって情勢合体者かえてしまう、というほど大 着他の側域はなみたいていの仕事ではない。私た 者階級の党をつくらなければならない、 ちの聞いはまだ中途にある。私たちの聞いは一定 れわれの特殊な位置 そういう中で私たる時間いがあった。私たちは

まや新たな皮助をよびさましている。社会域、だが、かかるわれわれの関いの巨大な前域は、

は消すことができない。 強化されつつある。だが、彼らがどんなにあがこ 冷般めてきている。革命的共産主義運動の新しい
くそぞ、われわれに対するしめこけ、独圧、変量 大衆と結びついてゆく「危険性」がはっきりして 一

解放求

るだろう。

共産党はもちろん、

社会党も 込死の策動を強めてきている。それは今後より

が、世界安と日本史の変革者として登場しようとの中からも 逃亡者が あいついでいる。われわれ りかねて、これまで革命的左翼を名のっていた者成左翼のしめつけの微化の中で、この鶏実にたま するとき、権力や既成指導部からうけるありとあ

を確立し、反帝・反スターリン主義―日帝打領の月を通して、七〇年安保にむけての聞いの方向性 現実からもいいうることは、七〇年の偉大な聞い てゆかねばならない。 われわれの戦略的万向性の正しごをはっきり歴史 このことを、一部の動揺している者に説けかえし 接触的にいえば、われわれば、との療動の七カ|基本があるので

めに決定的に努力を敷めていかなければならないがもっともっと強くなり、党的に成長してゆくた 神成景気、岩戸景気、高度成立を経て、経済的に厳主義は特に朝鮮機争を投機に急運に復興、発展し、

必解制で示賞祭りをやっていたではないか。 人民的高揚の現実性を崩積的にせよ、つかみえた 成功をおさめていったところにあるのだといって

激動の七ヵ月は七〇

以降、権力のわれわれに対する弾圧一球的は、騒 帝国主義との聞いの新しい段階に突入し、新しい 釈会等の米曽有の大爆圧に風せず聞いぬいたこと 利罪の傾鳴、その他大量整備、大量起訴、高爾保 われわれは、十・八以降の聞いを返して、日本

自信をもって言いうるのである。これは非常に偉 **た秀庄** 一 反革命を、身をもって経験し、しかもそ しざをもつであろう七〇年の難いへむけて一つの の七カ月の十倍、二十倍いやそれ以上の幾根と做 れぞわれわれの即と杆ではねかえした経験を再 いま持っているととによって、われわれは、楸助 十・八闘争を聞いぬくととがよびさました行動

界体制制体の危機、悪乱をもたらしてくることをみ いる国で、この国の线機、動揺は、この国のそれに 込んでいるという要言を映像性

おとう。石村は丁島できえば「アメリカ帝国主義がアメリカ帝国主義の対日政策について簡単にふれて

りと国内矛盾の激化

資を行い、それを生産力化し、しかも、それがある。 単符しつつ、ある程度シェアを分析し、次々起側投 関内的には、かなのの数の独占体が、競争しながら きつまりによつかっている。とれば七〇年を、六〇異的影響をよけてきた。しかしこれは現在大きなゆ 〇紀代)などという賞嬢をもって、 していた。しかし実際には、それ以降、それまでの 〇年は、高度成長のもっとも盛んな時で、帝国主義 こは国際的な帝国主義の延命、発展の中にあり

倒そのものを根本から打備しなければならない、──ポース・ト・ペート・ナーム・冷れわれを日々支配し、抑圧している帝国主義の体」およれアシアに対する策断が強まってがある。十・八の十・八たるゆえんは、実は、わ らがいじみた、アメリカ帝国主義によ もがいじみた、アメリカ将国主義による、ベトナム ポスト・ベトナム論の 誤りと現情勢の特質

衆の中に力強くが在していることを、十・八以降一あらわれた帝国主義のどうしようもない矛盾、我担えしてゆく力は、この日本の費利者職教、人民大一とのような主義は、ベトナム戦争という形をとって の聞いはわれわれに載えたのである。すなわち労 しているイデオロギーである。アメリカがベトナム 「ポスト・ペトナム」輪は全く間巡って ってくるという考え方である。たが実際には、この アメリカがアジアから引きあげて、新しい時代がや

とが、実際の系験にてらしてはっきりと示された。 年への展望を開いた どまでしがみついているのは、狭して生やさしい原 盟主として登場してゆくという主張も念く同様に関

圧との動いにおいて重要な経験をつんだ。十・八 学はが在するのであって、決して成分が好きを教をうるでとができた。とくに権力の無烈な弾 体制を 守りぬくという 課題を活躍に、ペト 日朝在化しているのである。帝国主義の原役体制の いうことはありえない。実際には、アメリカは必要

また、アメリカが接遷した接を撤当な帝国主義国

日帝の経済的行き詰 、ということが次に問題となる。感後の日本帝国

産

る現代世界の変革 の指針

革命的共產主義者同盟

制の崩壊的動揺

戦後通貨体制の危機と帝国主義世界体 フランス「五月革命」の教訓/柏木俊秋 三里塚全学連現閩本部閩争日誌 開川和夫

戦線戦術について

美濃部選挙と統一 と今後の展望 陶山健一



えるために極めて重要な、



解いは密集した反革命をうだ

的条件を定例に分析し、聞いの方向を明示する問題書配を一六〇女の労体に関数制の七カ月の総指にふまえ、七〇年間参の至命的帰苑を規定する世界史 倒・安保同盟粉砕へ闘いの戦列をうち励めよう激動の七カ月の教訓を踏まえ、日本帝国主義打 年への道・多楽 激励の七ヵ月のきりひらいた地平とわが同説の願い

ふみ固め七○年安保闘争へ戦列をかため化する反動の嵐に抗し佐世保闘争の成果 よう ④激動する情勢とわが同盟の任務 っての試練―革命的共産主義運動の十年 とわが同盟の進むべき道 ③いよいよ激 勢の現局面と今後の課題の勝利にむか ①10・8~11・12がつくりだした階級情

激動の七ヵ月とわが同盟の闘い ■羽田、佐世侯、王子、三思塚の歌踊の中で「前進」に発抜された魔器論文■

七〇年闘争の革命的意義 内外情勢の新たな発展と 清水、丈夫・「日本安美国題の本質的性格と七〇年曜季・日本帝国主義学といまく内外の籍予慰の籍・日本帝国主義学といまく内外の籍予慰の籍・日、京都教閣等の到達点

ゆくなどの変撃が労働者階級に対してきすます強さ、したらことに、ドイウによってつなどになると、一的に変質させ、組合とと丸がかえて、郷用化して「には原経の目命の構理として、目水が日本としてなの確化、黄金の抑制、さらに労働組合孝イデオロギースカレートさせていくととにある。これは、一般的の強化、黄金の抑制、さらに労働組合孝イデオロギースカレートさせていくととにある。これは、一般的 しているのである。

なった厳しい担実が、全ての犠牲を労働者、人民一ももだされていくことは必至なのである。かかる厳 こで働く労働者の生活と権利がもっともっとおか。考知企業を全国的に再構成してゆく変響が強なり 確の矛盾も深まる一方となるだろう。要するに 50矛盾も突まる一方となるだろう。要するに「世の中が完れてくる状況の中で、七〇年安禄が国内をなされる。また、大宗問題にあらわれる帝一衆と帝国主義者との間の階級対立が療化し、いわは「 的にエスカレートしてゆくことが、日帝が日帝とし味で、七〇年安保をのりきり、安保回題の内容を決定

帝国主義は、資本の過剰を解決するために帝国主義 安保同盟政策の役割 

なっている米価問題にしても、要するに農民にもっ、後性は終しゃなくおそいかかってくる。現在問題といの農民など非プロレタリア動労大衆に対しても、 不が生きるか死ぬかをかけてあいあらそう時代に突りつつある。このように、日本領域主義は、独占道巨大な雑占体間の合併、併合、再編成の時代が始ま 第一は、国内経済の独占的再編が音をたてて拠み くしつつある。その結果、次のような問題が生命し 犠牲をおしつけ、農民の分解をおし遛めることを 機烈な競争の強化、資本上生産の過剰の選★ 当然にも、後継国に対する植民地主義的な侵略を導

いて、経済的な矛盾が酸化し、労働労階数、人民大小可欠であるだけではない。同時に、日本国内にお七〇年安保のの9きりは、日帝の対外勝隻にとって七〇年安保のの9きりは、日帝の対外勝隻にとって いのである。

れの七〇年安保職争 のかそれとも影酔するのか、この二つしか与えられすはっきりしてきている。とすれば、安保に難成するすはっきりしてきている。とすれば、七〇年安保に 的機度を絶対に許さない厳しごをも0年期争はもっていない。その中間の遂は何一つ存在しない。中間 日帝がその延命のためには日米安保同盟を不可欠

> とと空意味するような内容をもっているといえよ ことは帝国主義に対する労働者階級人民の奴隷的 勢であり、われわれの側にとっても、それを許す う帝国主義の例にとっても死活をかけた階級的文 ち〇年の聞いはきわめて大きな聞いとなるだろ 最後に既成指導部の危機とわれわれの聞いの方 しての七〇年闘争 巨大な階級的対決と

第、共産党が破壊と基切りを探めている。社会党機の時代の層、闘争が始っている。その中で社会

実をぬきにして七〇千冬節ることはできない。危ちがった方向で指導されているという苦々しい時

社会党、共産党のもとで階級闘争が基本的にま と共産党の反革命 社民の危機の深刻化

のととはわれわれに何孝授げかけているのか。それしのもの復教解するととな問題にせざる孝えない。と

という点である。職後、重工業国家として急速に変的な対外膨張の道をはっきり歩みだそうとしている

「猫んでいるといわれながらも、しかし内部的」

(二めんからつづく)

ななのである。例えば、鉄鋼器がにおいて、大銀合 いて節わぬかなばならぬという際層におうかっておったが下間能になりつつあるということが、今日の時 は、一方におていば発謝国に対する市場参書物にお というは、独占体が影影とながら、共発失策していっこ」はうまさば、「機会器を指揮して会に日本帝国主義」という。 で、いよいよ太格的なものとして整場して来ようとに対する役略は、独占の原団する役機の探別化の中つての自軟闘争の中で指摘した、日帝の原岡アジア でいるのが今日の既代的特徴である。われわれがか、世景のもとで、日帝の好立、京間ノンテを終の成立ているのが今日の既とかの知道にようとし、体側の悪災的動揺の開始上日帝の後継の深化にう。 は、他側の悪災的動揺の開始上日帝の後継の深化につ

反対は同時に日帝に対する態度の明確化(=日帝打に安保の髪罪と日帝存亡が徳著しているとき、安保に安保の髪罪と日帝存亡が徳著しているとき、安保に安保の髪罪である。このよう をかけて<br />
展開される<br />
日帝の<br />
途本的な<br />
政治<br />
一外交<br />
政策 その日米安保同盟政策とわれわれがはっきりと対 らうらうちされていなければなんら力とならな

って、表ならどんどん内容的にもエスカレートするというは実は、との戦争への協力であり、戦争のために必可は、日春の知道の法的援助となっており、安保の服持とれているベトナムは略戦争への一番。 れ目体が、日々行われているベトナムは略戦争への 運管すれば、一年後に効力を失うというという理由と安保条約が国際法上から一方の国が条約の終了をけられねばならない。このととは単に七〇年になる からだけでない。時に安保が存在するということ子 さらに、安保についての態度は、安保賛成か、安 に明白になりつつある。われわれの関争におい 安保そのものの粉砕が直接の腰踵としてかか

0

危機と

わ

れ

わ

'n 0

いくということができるか。左貫の象主観の立場いくということができるか。左貫の象主観の立場がいくということができるか。左貫の象主観の立場がといる。だがそれでは、と

悠後に直回している。

に立つ以外にそのようにいうことはできない。モ

カレーションに対する費成を意味することがますま、実施することが、職争への知風であり、戦争のエスを高くして、戦争のとでは、安禄の存在そのものを

のもの全粉砕することを課題にせざるをえない。ととし、しかも七〇年安保闘学はその安保問盟政策を

ない対決である。労働省階級人民の領には置うしてい対決である。労働省階級にとってもぬぎさしなら 階級の巨大な反響のエネルギーが溶積されてい すます塩んでいる中で、七〇年にむかって労働者しかも帝国主義の危機の終化と支援の稼化がま

してくる。社会民主主義のもとでの運動は大きなにおいては、社会民主主義の根本的な破歴をきた帝国主義そのものが危機に陥っていくという時代

令としても労働運励としても一定程度成立するが の運動は帝国主義が安定しているときは、政治側

は、郷田におのされやこれに独立、七は間は泉が形式的には紫褐され、いである。今日ではらばる。これ、石がまた、今日の日気の第千べきたがために、一連の火候にと願か、年間月二十八日、少寒的が落めし、ていったことは子でに間覚めるお、るるな主義と様形主義だけだ。それかっために、一

ればはらない。七〇年の関学はなぎそういうものに、として、われわれば、安保粉砕、日香打倒の革命的として、われわれば、安保粉砕、日香打倒の革命的以上のことから、七〇年安保蘭学の基本的な万向 安保を必要とする体 制そのものの打倒へ

とのことは別の面からみれば一層明白となってく 安保を必要としている日帝の体制そのものを打倒す は安保粉砕の闘いを本当におし途めてゆくためには

ここで安保粉炉の闘いを本当におし貫くためには われわれの利慎的な宣伝: 観動が多くの人々の心を

・ 角けたってかまわない、

一蔵びたってかまわない、数 | て二重の苦しみのもとにおかれたわれわれのこの現

れれば、沖縄の永久核差地化反対、本土復帰・接地七〇年闘争との遠図の中で、衝撃に沖縄問題にふ

1リニストや、これに対して、「中央解放」などとと神細問題の根本的解決を機械的に含りはなすスターと神細問題の根本的解決を機械的に含りはなすスターが限していることである。帝国主義行倒
 位置すけられた時、本当に革命的な沖縄競争としている。

製金業化するとによってした金色のどんとく一つなく、共和のとの特別を選手を与っているというだっては、特別になっているというできた。今年の10年を担当されているというできた。今日の特別に対しているというできた。今日のは、日本なんが「なく、共和のとの特別を選集したがあった。」というというできた。「日本なんだ」というできた。「日本なんだ」というできた。「日本なんだ」というできた。「日本なんだ」と、「日本教徒だとなったがいいんだという考えて、いわば、日本なんが「なく、共和党というできた。」 粉砕し、日本帝国主義を打倒していく力が きない、O しかも労働省階級人民の例には安保を ている、③しかし往共のもとにおいて聞いを発展

労働組合運動の中で多くの困難に質面して、移命いを無路的におしずすめなければならない。現在 十・八以上の内容と組織的な力量をもって、闘

われわれが階級闘争の指導部と

たり、支配階級が予防的に七〇年対策に耐く、モー 八がそうであったように、革命的左属が自分たち

共産主義の名によって革命を裏切っている、 共産 大産 大産 大産 大産 大産 大産 大産 だけが前者である」という神話をたえず再生産すいくことを非常に恐れている。彼らは「われわれ をとっている。日本共産党は、七〇年において六 ら、自衛の権利を確保しておくというよう 中立化させ、この中立を破る変響の危険があるか り、七〇年に「安保終了通告」をやれば平和と独は、議会で多数を獲得し、「民主憲会政府」つくし、議会で多数を獲得し、「民主憲会政府」でいえ、はっ合り示している。七〇年安保との関単でいえ 路線のもとで行われている日本共産党の総路線が けだしてくるだろう。これは営本政治の自主資でさらに共産党は革命の終税者としての姿をさら と会送主義と社会排外主義におちいっているので 党は労働者の味方ではない、民族主義と概念主義 ○年をのりこえた闘いを革命的左翼が爆発させて 立がやってくるとか、安保を破棄したあと日本を

かかけて前通していかなければならない。 とみつめ、革命的左翼は全大衆の前に自己の旗を させることができない、こうした現実をはっ われわれ以外に七〇 年を切拓く力はない

既成指導部のもとでの階級闘

主機行団、スターリン主義行団、日本帝国主義行 てこういう考え方はこれからの時代において多く となく提起する以外に前地の遺はない。逆にいっ して目の登場していく以外にないとと登録するこ 側の最も機能した階級的立場をもって、社会党、共 ことができないという問題があるのである。 そういう眼域を根本から解決していくためには

的左翼の立場をどう現実化させていくかに労闘す

ことができるのだということをあらためて確認し

のである。とういう既成指導部のもとで、 **懲いかかってくる、そういう革命の疑切り** キスト」「反革命分子」というレッテルをはって

だ。安保閣争は巨大な物質的基礎をもっているとは大衆的に革命的に発展していくことができるの

あげられるものだということを何よりも確認しな

マルクス主義青年労働者同盟中央機関路 青年労働者の活動と学習の指針

活場 版化/ら

″党のための聞い、と

ある。しかも革命的に闘うものに対して「トロツ

いかかってくる、こういうことが七〇年にむかっ線に組織力を発揮し、そしてわれわれに対して解 も認乱と行傾化をたどり、共産党がまちかった路 〇七〇年は重要な対決であり、負けることがで

べたように、社共にかわる闘争労働者の指導部と七〇年にむかって超んでいくためには、先に述 「党」としての闘い。

参。と \* 「発」としての闘争、 を減命的に生き生 任務をはたしていく関い、つまり。党のための現生の力量をもって、今日的な「党」としてのの現生の力量をもって、今日的な「党」としてのにある。 いる。とういう組織的体質を自分のものに出来る

るような考え方では、帝国主義の矛盾が稼化し、

盟の任務

ずく三、四月の三里東、王子蘭の夢の歌門(よふ)将軍主演との非安節氏な反戦闘争の爆発、なかんま将軍主演との非安節氏な反戦闘争を。十・八。 まえ、戦闘的労働者の任務を明らかにする

**当面する政治情勢とわが** 

深まっている現実の背景のもとでは、絶対に生きスターリン主義の矛目が探まり、世界的な強動が 84号 (〒50円)

リカ帝国主義ションソン声明とアメ

代である。とすれば、帝國主義を倒す、そしてスロシア革命によってきりひらかれた世界革命の時 の砂質的機能をえて大きな力を階級闘争に占めて 韓の時代は資本主義の死の哲問の時代であって、 民主主義に指されきった異常な状態であった。 の聞いが当り前の状況であり、むしろそれ以前の こういう考えが必要である。そもそも帝国主 ・23スト中止の教訓中島茂雄中島 (大)

北小路敏

学働運動

●学習欄 ― 好評三速数

**革命運動史講座** 開表表表面與8万點第

性、組織性をもって力強く前進していく、これ以外の強烈な展開に耐えていけるような思想性、政治学びつくすととは、とれたころを階級闘争 十・八以降の状況に若士示された将服をもっと と組合統制処分 東交三の輪闘争の意義 日米共同声明下の沖縄

(火)(花) 戦場からのレポート 山村克 東京化学展開 東京化学展開

かけつける「市民」たる-民間三首すみ子の時いに関手に参加して-電場中原具奏 モデの間いに関係を参加して-電場中原具奏 モデの間いに対象を対算 この次は覚えていろー3・23王子田教会村賃 このにはいる

新聞時だいた対抗性の理由、大事がいる物に大きな大法と、**整理を**問題に、そのドーコーセでは、実践の大変に発表していた。 1年月刊の「最初的」の対は、一大・のよう、無性等のはの、しているか。 1年月刊の「最初的」の対は、一大・のよう、無性等のはの、しているか。 **闘う全学連を担う中核派の理論誌** ルクス主頼学生同盟中央機関記



全学連大会特集号

保粉砕の戦略的位置武部連即日本革命の展望と七〇年安 日帝打倒・日米同盟粉砕の立場と歴事

全学連の革命的発展のために

ルクス主義学生同盟・中核派

| シェヴィキの決算||草マル駅の社民の尖兵への転落| | 図の七カ月をきりからいた核心の力は何か 4メン | 日間う主流派のもと廿〇年間争隊勢きずとう 2七

現段階の最高機能がある場合である情勢と学生運動 0

類、教師の七方月―12月の勝利と学生短額の現政権が、教師の助語と戦後世界体制の秘密のと反復協会・中機関学の基礎の助語と戦後世界体制の位機の設化、参戦国化の機の動語と戦後世界体制の位機の反化、参戦国化の

五、六月闘争の大衆的爆発を金融を表現の大衆的爆発を

▼特集・三月合宿報告▲ 集成第日本プロックから

正の宗化は、五日、東北、関東、 当局の滅図を掛砕して、 毎年の宗化は、五日、東北、関東、 当局の滅図を掛砕して、 毎年

陶山脈起訴さる

1日本資本主義發命之帝國主義政府 2 帝国主義及時現代帝国主義教院 (上) 片山丰二年 明朝

\*新供を事実上破業しても有罪を 争がサンフランシスコ平和条約と用が成立しなかったとはいえ、 かれていたのであり、それらの簡

れはまず、強い怒りと抗議の敵志

結合して、日米帝国主義打倒の関
ら夜防法粉砕闘争などに有機的に 安保条約の締結に反対する勝争か

| 2月1-11日、大阪電気行力に乗ったの電子ので、大学電子の関係を表で与って、大型に対しておけられて、大田のでは、 決配署会を開き、八月間順の一連|話勘を行っていた学生や市民が西

とであろう。したがって、今日のもって提起しろる革命的共産主義はやここで招摘するまでいるないと、する日本帝国主義打倒を選択任を 日共指導部のような立場があらでは、運動のみが、朝鮮戦争下における 除ずる資格 さえ全くないのであ の階級的意識を正しく位置づけう 大須察が存などを唯一の反響であったこれらの関争 法」(部高への社会保険法)制定 ているのである。 都経費年の登職 結集して「部落 解放の特別 指置 一部路の上に振も前離な雑姓を養い を要求する敵しい衝頭行動に巡ち 条件は悪化の二金をたどっている このような状況のもとで、今日 同の山村(帝国主義と革命)、田 選目から四日間、午前中は、 革共 の 張力さに 報号した 響楽は ジュラ の競争への秘志統一を行った後、

無罪判決で騒乱罪は はねかえせたか

百万円ものカンパが寄せられた。 つたが話である。 で行なわれたとの疑いに、実に二 動をくりかえすことに対する夢ら 帯にむけての金巻連の決撃を終えしていると同時に、同じ着程駅に 佐世保集会の成功と七〇年安保券 家権力のなみなみならぬ恐怖を示 た。淡谷、有楽川、新檀の三カ所 民と共にスクラムで願いぬき、カ

氏から、革命的共産主義の思想とある。岸岩の返摘理由は六・二六 61号 (〒50円)

国際共産主義運動史1 武部達郎

絶讃発売中

をアメリカからも起す 七〇年安保粉砕の闘い

リチャード・ボルザー(SDS)-L

そしが開放い

沖縄渡航制限を撤廃させるためにし

愛知果醬田市議会議員 渡

久 地

政

司

晴

海

頭

を

戦場に

ナルビルと平行し

をいまった。 「関係の主ない」という。 「関係の主ない」という。 「関係の主ない」という。 「はいっした。」という。 「はいっした。 「はいっした。」という。 「はいっした。 「はいった。 「はいった。

ればならないのだ。

者が、検控、入国、税関の事務・ 夏の終わりごろ、数十名の君・ 対け 東京・斯ែ。

してしまう会院。

の沖縄行進」に家僚されてきた

ある。学生たちは叫ぶー

一時間半かかる。学生のスロ

、かれらが

一九五一年、アメリカ西郷岸 - 含を担否する。それに乗船客も

ఫ

東京·附海。

×

用職を完了した。 私はいつでもそこへ出かける 沖縄自由波航を獲得するため

「沖縄」 を奪還する ために

パリの街路はデー場形にい シスからのレポート』「を紹介する予定である。(編纂局)

一世」「われわれの帰宿力を守れ」

本の完全のケゲック・ビールを のキュロキュロレス 機関に対 き、スーツケースのチャックを のごうの手動きを強いられたけるができるケゲック・ビールを のまった (機関語)
 本のごをかかゲック・ビールを のキュロキュロレス 機関語ののでいる のこの手動きを強いるがする かった 機関語のののから からの国 深から作うる からした 機関性の関いから のこの手動きを強いるがする から、大き、機関性の関いのできるの国、深から作うる からになる (機関語)
 本のこの手動きを強いるれたける かった (機関語)
 本のこの手動きを強いるれたける かった (機関語)
 本のこの手動きを強いるれたける かった (機関語)
 本のこの手動きを強いるれたける (機関語)
 本のこうを表明されたける (地域に対している)

機に乗れない沖縄県民にだけ強

との原因は何か。

ひめゆりの答」や「かけ声だけ ではら一調。「甲子関の砂とか ではら一調。「甲子関の砂とか ではいて抱

患の各帯で、沖縄県民に囲辱を<br />
あるあたたかい心と心のふれあ

畴 ٤

沖縄県民に強いられたこの組

そして、今東京、神戸、開児 **早、政府、その名は、言田** 

寒速」という語台のなかに を排除する。そして「沖

フラ ンスからのレポート

2

くみ、ピケをはっている。

連載

増は

像によって処罰されますのでご

労働者・学生が羽田、佐世保、三 ての人間にとの聞いは多くのこと者、学生が超く巡視してて聞った に対して聞いを続けている。すべ

里塚、王子と展開されてきた聞い

フランス

動委員会のまわりに指揮し、来る り もいであった。学生、労働者、 か な解除空私たちはよく知っている 本的な解決を与えることの決定的 燃させた。ストライキをもっ 、共岡の瞬いをつうじて独占質 

へき日々に最後まで駒いめく姿勢 | 終始する四十ツ帝国主義と闘っ即委員会のまわりに結延し、来る | リカ帝国主義を助け、反共宣伝に数帥および他の人民諸阪輝は、行 | われわれはベトナム戦争でアメ っている。

を現在団めている。

ドイツ社会民主党は急遽的な学・共感を表して私の疾沙に代える。 する簡いを関っておられることにっている。 秋には強力な闘いを準備

イギリス ーコーピン(CND)し

AOT-OZ (行動委員会) フラー 盟)社民党の皇客に抗し、西独国

参われわれは彼く銘配している。 一 われわれば、あなた方の一九七れてゆくあなた方の聞いの巨大さ なた方の説称である。 のでは、まずます繁大さ ランス後実験に反対することはあ

帝国主義者を打倒し、真 の社会主義をつくろう

の第一歩であった。労働者と学生フランスにおける五月の願いはし 概が全地球上から抹殺されるまで は最終的な実を結ばないであろう

闘いに敬意を表する 日本の帝国主義打倒の

ゲーディッヒ (SDS)

デモなどを願っているが、

にはRSSF(革命的社会主義学

代表・「連帯の経験を送る。 対しわれわれ博学たちは学生・労団 関う回域解消にドイツ・808」生と労働者の部に横に構造している。これに 関う回域解消にドイツ・808」生と労働者の間に横に構造しくの 新者の下部において、とくに著年 対しわれわれ背年たちは学生・労 意識させるべく、環場組織をつい り活動している。最後にあなた方 労働者に着目し階級対立を明確

っている。ともに関おう。

の の の に 大学生 社会主義目 の の の に 大学生 社会主義目 の に 連動 アメリカ反應闘争の中心的 別 が 存在。 全国各大学に支配をもち、 関大連動と巡帯して関う。

百人委員会――イギリスの戦略的 没収された。 総。飛近、ドゴール政府の官僚にンスの大学生、高校生、数時の組

隊の数がこれほどになってしまえ

十つ、まきれし代付が、スター この間間を参加して持っていたの コースへの質性では、整備してである。 かれるしまを向よりのもだった。 数をのたに発きしまりをしていたが、 数さのたに発きしまりをしている。 かれるしまを向よりのもどれるとなった。 されるしまを向よりのもできまった。

Bort、だが開始された議論は、 た とのE スターリン主義者は し、家に帰ったのは数十万であっ せることに成功した。数千人がシ 

京浜地区巡学(86年2月19日) ジゴくりのために天皇を全国行脚させた。写真はその第一日、の高まりに対し、支配階級は国民の天皇に対する新しいイメー



形式をとることによって政治支配 との間に法的継続性を保ち、釈迦

**うな姿勢によってのみ比較的容易** 主傷への移行は、共厳党のとのよ 行動を組織しようとしなかったの

も共産党であった。プルジョア沿

する弾しい聞いに接渉を送のたい 内容図主義の、またベトナムにお けるアメリカ帝国主義の知氏に対 一思います。

私は日本に米であなた万の羽田 三三次、王子嗣

農民が米軍機場の拡張に対して関 っているとと登職民の口から

|聞くことができたし、東京大学に | 学生に対して自由ということを口 | ※私一きた。 メリカがわれわれの黒人の兄弟や

なうアメリカである。との同一ゲー人の運動は非暴力の運動から自分・ラ声が七〇年には、日本だけではいて我虐な常国主義的知旺をおし、でいった。またこの同じ時期に編奏後に私は、「安保が砕」とい にしながら実際に は如圧し てい

六八年の現在では、あの没道徳」いと思う。

うことを置って私の話を終らせた

者、学生が世へ近常してて贈った」に対して聞いを続けている。すべ、強化していかむはならない。〇年の聞いを注目しており、労働一も積多のただ中にあって、兇略者」いるが、交続はまだ朱光かであり イギリスの運動は、残念ながら

資本取得の権力を打倒しよう。 会、CND(後非此装運動)など。て譲渡し、失い、冗談をいら合う物等、学生の同志語名、独占、要参展している。現在、百人委員、既允でいる。人々は、ビラをめくする。現在、百人委員、既允でいる。人々は、ビラをめぐされるということを示している。 ように 峻髄的なも のして行く必 一てしまう、みんなむごはるように 一角的ではないが、今後あなた方の運動はど戦 学、細菌兵器生産にたいする抗議 を中心にベトナム戦争反対の聞い が行われダウ・ケミカル工場の化 おいへしあいピラをとってゆく。 おいへしあいピラをとってゆく。 十枚くつ、 のうちに、六千枚ほどがなくなっ とってに、 きくのを学伝う、数分 晩まずに、まくのを手伝う、 一う、とのような光景が方々で見ら 十数人の人々が、ピラを最後まで

で れる文書は、主催団体のものにか \*\* 体が出した布告――「当日許可さ \*\* 体が出した布告――「当日許可さ \*\* 本命的グループのパンフレット 三)一は、一斉に厳奏された。

トしまっている。COTの計略に気 ではあと、パラパラにわかれた、トラペラにかないとつかのグループは広場 すつ、まぎれとんで行く、スター前と後のデモ隊の中に百人ぐらい

金生だちは、労働者の子もの中に、るのだ。陳列の最後のギマイルに、して、 たるで、水をは、労働者の子もの中に、るのだ。陳列の最後のギマイルに、しているしたギヴィ。のすのデ・五、六列の「東省ノットいる、ストーを開発した」と称している。ストーをは、労働者の子もの中に、たって、からとはその問題によって、からなって、デモをおしている。ストール・ファイルに、して、

が一人一人はらばらな状態にもど しているのがとわいのだ。労働者

者が、シャン・ド・マール(エッ 学生たちば「トラブル・メーカー月二十二日運動」は、学生と労働し行われ、効果を発揮したのだ。 て個人的関心事にかえってゆくと 群梁の中のおくれた部分に



側板議会の記述のなかで、 プルジュア議会主義にもとすく安一郎にも、潜囚しているが、明治滅法を内止めた。ソ連のとの要求とて、たのは、 同接 統治という占領でいた総に沿って廃止するととを受一斉回議会での 採択 をおと なわせ

ながしたが、「一般では、大きな人が、大きな人が、大きな人が、大きな人が、大きな人が、大きな人が、大きな人が、大きな人が、は、からした人が、大きな人が、大 の実力関争を必死になっておさえ

つぶすための改革であった 新憲法は戦後革命の高揚を

止か、またはそれをいっそう民主 G、なおかつ明治滅法にもとすく 連合にこうを素やし、天台側の鹿 Gが延續、関接の圧力を加えなが ソ連なとはダラダラとうづく領域 G施行されることになった。G H とつ収拾的対決にまで発展させる。 し、この削減議会が召集されていかみついた三段階級略論であった

だけだったのである。 和国際法學繁党紙の上で対義した 法に主義をおく国家権力がプルジ の当り前な前提すら無視した民族 にもとすき、衆談院で自衛権のは "ア的本質をもっているというこ そして、野坂参三は、この草梁

いかにも沖縄的だ。哀しくて、いかにも沖縄的だ。哀しくて、 船が埋煙に機付けに なって い 甘ったるく、死者を売りものにいます。検査に先だち、 の名削は、ひめゆり丸。 アメリカ

ある。船舶被れのため、腹ばか、中帯もれがどざいましたら、法・・「大口の脱裂は見のがすくせ角の照われたととろが、税間で、入して下さい。もし検査のざい。に」 え人でムンムンする。内部の一 ましたら、もれなく申付勢に記 「祭殿はターミナルビルの中は、田辺 総額、守石、費金類等がとざい 田辺え人りきれない。 の携帯部の中に、時間、タパコ 酸的する。

「税限は早く運ぜばいいの

るために「里子」に出した「髪」 沖縄をアメリカの※基地にす る」といわんばかりに。 て、アメリカに里子に出したのールだ。

東京・暗郷に「沖繩」を出迎 これが私のさざやかなアッピ

場合は、五日的に適告を行わねば 地では、公認のストライキを行う 地では、公認のストライキを行う

十五灯ほどの機断悪がつづく、印

象的な光質だ。 数節、労働省の団指」と書い

リケードの役」の後、たった四十一度・一つことででする、「全生・リケードの役」の後、たった四十一度・一回となってする、「全生・リケードの役」の後、たった四十一度・一つことで、最別別には、赤

かわらずパリはまひざせられた。

ムをくみ、二十列から三十列ぐら なうたいながら出発する。 スクラ

てこたえられたのだ。スト指令 二時頃、学生の部隊がインターてこたえられたのだ。スト指令 二時頃、学生の部隊がインター

時間ゼネストの呼びかけはは、労組 街は人々でぎっしりた。 二十四

説するものもある。 ありとあらゆ

男も女も

そしてこの行動が

老人も若れも 安保体制をも粉砕する。

しかし私がとして店したいのは、き、アメリカの指摘における風人参ごのアメリカ、すなわち顕著だの兄弟だらの反乱がつづくかぎりたのように関っているデメリカ、参生運動は、その組織力を原持しまる。それは学生だちの変更的は、さらに発展していくだろう。 に関っている黒人の兄弟たちのア はり形成者様にあり、力をまだ充アメリカであり、もっとも総顧的 しかし私たちの運動は、またや 腔 ある。 りの衝路はこの日、デモ隊のもの にいる。主催団体間の取り書めに 一台のバスも束も見えない。パ

駅前の広場

メリカでありこの学生の願い、黒 | 分獲得していないととを率喧に述 ものは何かと聞いた。おそらくそ 女の人が私に、日本で一番美しい 二週間ばかり前に、日本のある 内をおってラテン区でする し、共和国広場で会流し、パリ市 よれば、デモ隊列毎に別々に機能 ンフェール・ロシュローによく行

る。この六〇年代の初め、学生選 神社を心にえがいて聞いたのであてアメリカでもよく知 られてい の人のつもりでは花とか庭園とか くととになっていた。

一人の男があらわれる。かれはあ をぎっしりつめたかばんをもって ピラが読まれる しかし、ピラまきを一人でつつけ 一日中、太陽は蝉いている。駅

**郷たちが手を扱る。** ろがってゆく、树院の窓から有護

デモ隊は解散地点に近づいてゆ

CG工幹部たちは、数十万の

吹き出す。やがてこれは、広々とする。だれかがインターの口笛を

した麦州をわたる風のように、あ

を、思想を、文献を、討論を、論 中には、数多くの示旗と何本かの 5月13日パリの街頭デモでの

一 立ち、数力がこれにつづく、しっかし。左案的な。デモの部隊は、 のかし。左案的な。デモの部隊は、 さんだは、学生と労働者が犯別で をたちは、学生と労働者が犯別で をたちは、学生と労働者が犯別で を行われていこ。 でろまでには、約八万人の学生、ことにけようとしている。これは、いっ 発する。数万のデモがこれに完 教師のデモ隊 が共和国広 場を出

かった。かれらは一日中、まざに 合同の総括集会を購くことを訴え 令する共産党 とを欲しているのだ。他方、 トの「防衛隊」がどういう意味を との時になって、スターリニス ル塔の下)の芝生まで行って れ解散を命

て (一般資を起すもの)」「冒険主 「 (一般資を起すもの)」「冒険主 (一般で多かれ」であられれ 「 (のの変素に」 たがえば「 O RS (のの変素に」 というには いなかっ 時には抗議されなからも、解放さ では暴力的な攻撃を加え、OG では暴力的な攻撃を加え、OG こと、かれらはいったのである。

れらは労働者がデモ隊として結案 死になって神経を使っている。か デモ隊が、平穏に解散するよう心

というべきが法決正とは地吹革推 ではてしない国体倫学をつづけていたとをます第一に質徴させな ではてしない国体倫学をつづけて

としてふるまっただけなのであっ たしかに、 幣原内層当時、GH レタリア革命の例に農民が獲得さ という遊歩党の家法改正案の一議会での傾間演説で「議法よりメ 一部の民衆は、議会内で国体論学など シだしと言じた。たしかに、

□日のの選指で支えられ、参ういた。とたがってヤルタ底をに対 ていっていることがに対っても、 とて月の機構ののきゅうな機関 いて、ソボのテクトに対ける機能 日本決略的の財産果実にたいし をは、超継機ののきゅうな機関 いて、ソボのテクトに対ける機能 日本決略的の財産果実にたいし の日のの選指で支えられ、参ういた。とたがってヤルタ底をに対 ていっていることがに対っても、 士二日、ようやくにして第一次言 米帝国主義は厭梦しつつも、 ソ連は日共の解放軍規定に 何一つ批判を加えなかった

急で映起」し、デモ禁止命令を発 意で映起」し、デモ禁止命令を発 吉田内閣成立の二日前、食糧メだけはなんとしても紀止せねばな

しまうからであった。 え切えようとしなかった。のであ したがって、マッカーサーは、

れらの数は一万、あるいはその倍 使ったものである。デモには、かち、今日のような場合に、いつも らさえも重で気質をよびよせる。 を助真するということである。 レンヌ、オルレアン、サン 田内閣を成立せしめた。

あらゆる職場か う。しかし、若い う。しかし、若い活劇家で抗議すその隊列は、たいていの場合、従学生がうまく入りこのなかったデ る。デモ隊の構成いかんで解散には、オるデモ隊の反応はお話いまであ

みんなが叫んでいる。

ウエイター、市職労働者、画家、一者、学生の台同院会に参加して、参与労働者、ガラスエ、化学労働者、と思う人はプラゴー廻りへ。労争 家、清清労働省、銀行従業員、独 ―― コテレビを見に家に帰りたいマーケットの指す。電気工、公理 ―― フテレビを見に家に帰りたい 鉄磯貞、金属労働省、空産労働省 るグループもある。学生のアジテ教者、印超工、地下 路難し、立ち止り、議論学はじめ 装飾家、ガス労働者、店員の少女 らデモに参加 あらゆる工場、職場からデモに一

異、数師、医療労働者、プラスチ \*\*文章、後属を前着\*\*ナラく\*\*・マールへ行こう」。\*オルムスタジオ戦闘、パスの機務・シャン・ド・マールへ行こう」。\*オルース選の帯と拾って、\*オルース選の帯と拾って、\*オルース選の帯と拾って、 一関争をさらに発展させようと思う

巨大なデモ隊は

解散させられた

何物をもくつがえしうる巨大な力。スタ て行く、一旦決意しざえすれば、人々は、無限の列となって行進し 解散命令に抗議する人々 主義行のピケ隊が

かかって、「排発者」とどなり

負傷者たちが入院している病院一きずり出す、

ス共産党の役割

でもころでは数百人、あるいは数のよころには、十数人、他があるところには、十数人、他があるころには、十数人、他がある。「採発者」 れ、ハンド・マイクをうばわれ、 制憲議会



天皇主権説、「統治権は、これを

体系側出にさいし、議会内反対対 主護を軸とする政治文配構造の法かつまぬがれえず、階級間の再は 絵改正、つまり、プルジョア民主 のなかで、側蜒議会に参加し、遂 歌漢頭の革命印爆発の一時的後載 つ解決されることがなかった。しれ共同院、とりわけ共産治は、大 呈した感覚社会の矛盾はなにひとれ共同地、とりわけ共産治は、大 呈した感覚社会の矛盾はなにむく集上型されたのである。このとき、 れても、四月危場のなかに刻く集上できれたのである。 めの別提条件ともなるべき法案が 帝国主義の政治支配帯短側 案と展地改革案という、戦党日本 えた。第九〇議会には、憲法以正 二十日に弱九〇臨胺議会を召廃し 政策をとったのち、始めて、六月 労働者既民の関争を抑圧する強権 アダリカ占領軍と文配階級は、四の深突は不可逆であった。それ彼 ても、政治文配の不安定性はなだ たがって、撤送の成立をもって たように、四月危极を回避し、

関しただけであった。彼らは、戦 第一次吉田内閣は、このように、委員会で形式的な抗議の意志を表 そして五月二十二日に成立した政策にたいし、対日選事会や極東 たのだった。 もなおさず、大衆運動に一時的な る。しかも、頻繁点が間定され、 プルジョア的改革であったのであ 新巻式の採択は、占属軍の手

てそれは、何回となく絵画して含 化指令」の完成でもあった。そし よる形式のいわゆる一連の「馬主 配安定化のためには天一の地位を

後危機が四月危機となって爆発し

微減していった。支配階級による 二十五件、二千四百八十七名にも 和せしめたことのなかに、 おくれた巨衆の不衡を行一でも さなか、天地の全国行脚によってのなかに残したのは、食糧危根の

Ш

和 夫

OHQのデモ禁止令と疑念食糧

物質が参加していた五月の生産 た。GHQが、象徴天歩制として 確認され、プルジョア議会主義の だが、新脳法の制定によって、

放出、そして吉田内閣の生産管理 できなかったのである。 なかに社共同党もひきこむことが進のために、議会主義のルールの

の政治的性格が変更するとは断じ と言明した。